神経難病における心電図検査所見に関する分析

◎中村 良幸[1)]、土田 昌美[1)]、霜田 由美子[1)]、森田 千穂[1)]、太田 明宏[1)]、川上 喜久[1)]
独立行政法人 国立病院機構 西新潟中央病院[1)]

【はじめに】今回我々は、神経難病における心電図検査(以下、ECG)所見に関する分析を行ったので報告する。
【対象】2018 年 4 月から 2023 年 10 月までに ECG を実施したパーキンソン病(以下、PD)患者 197 例(平均年齢 70.8 歳)、多系統萎縮症(以下、MSA)患者 71 例(平均年齢 67.5 歳)、筋萎縮性側索硬化症(以下、ALS)患者 63 例(平均年齢 69.2 歳)を対象とした。
【方法】神経難病患者の ECG 異常所見の出現状況について分析を行った。なお、判定は心電図解析プログラム ECAPS12（日本光電）を用いた。また、2000 年に厚生労働省が実施した第 5 次循環器疾患基礎調査との比較を行った。
【結果】ECG 異常所見を認めた症例は、PD128 例(有所見率 65.0%）、MSA47 例(有所見率 66.2%）、ALS53 例(有所見率 84.1%）であった。ECG 所見内訳①PD：T 異常 29 例(14.7%)、Ⅰ°AVB18 例(9.1%)、ST 低下 14 例(7.1%)、LVH15 例(7.6%)、CRBBB15 例(7.6%)、左軸偏位 14 例(7.1%)、QTc 延長 14 例(7.1%)、その他 23 所見 78 症例。②MSA：Ⅰ°AVB12 例(16.9%)、QTc 延長 12 例(16.9%)、ST 低下 11 例(15.5%)、T 異常 10 例(14.1%)、左軸偏位 9 例(12.7%)、その他 13 所見 35 症例。③ALS：QTc 延長 19 例(30.2%)、ST 低下 10 例(15.9%)、Ⅰ°AVB9 例(14.3%)、T 異常 9 例(14.3%)、左軸偏位 8 例(12.7%)、その他 17 所見 41 症例。
【考察】第 5 次循環器疾患基礎調査結果における ECG 異常所見の有所見率は 41.9%、70 歳以上では 58.3%であった。本研究における各神経難病の有所見率はそれぞれ 65.0%、66.2%、84.1%であり、3 疾患ともに高い傾向にあった。異常所見別に比較すると T 異常、QTc 延長、Ⅰ°AVB、ST 低下、左軸偏位などの出現頻度が高い傾向にあった。
【まとめ】神経難病における ECG 所見に関する分析を行った。今回分析を行った 3 疾患ともに ECG の有所見率が高い傾向にあった。特に ALS は有所見率が非常に高く、QTc 延長が高頻度で認められた。神経難病は自律神経の異常をきたしやすいことから循環機能の異常も考慮しなければならないと考える。今後は、さらに症例数を重ねて分析を継続していきたい。

連絡先 025-265-3171